



### 患者支援センター長から新年のご挨拶



副院長  
患者支援センター長  
たつもと なおくに  
立本直邦

令和5年の新春を迎え、備北地区の医療関係者の皆さまにおかれましては、幸多き新春をお迎えのこととお慶びを申し上げます。また、平素より市立三次中央病院患者支援センターには多大なるご支援ならびにご協力を賜り改めて心より感謝申し上げます。

さて、いまだに、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、年末年始の行動制限なし、そして国民全体の若干の気の弛みも相まって、第8波の様相を呈しています。今や国民の6～7人に1人がコロナ陽性を経験したことになるほどです。一度罹れば二度目がないのならまだしも、株が変わるとそれも叶わない、といったことも困ったものです。ただ、幸いにも、ワクチン接種が進み、新規抗ウイルス薬等も承認使用はされ始めたため、重症化率は低いようで、感染防止と経済活動が何とか両立していることは救いです。

当院も、スタッフの感染、コロナ陽性患者様の入院増に伴い、入院制限を余儀なくされた時期もあり、皆さまには多大なるご不便やご迷惑をおかけしたことと思います。職員一同、日々の診療に立ち向かっておりますので、改めてお詫び申し上げますとともに、ご理解いただけると助かります。今は、一日も早い終息を祈るばかりです。

今年度も相変わらず、患者支援センターの重要性には変わりないと思います。また、皆さまのご意見、ご要望には、引き続き迅速にお応えして参る所存ですので、引き続き患者支援センターをよろしく願います。最後に、皆さまのますますのご健勝ご多幸を心より祈念いたします。

#### 令和4年（令和4年1月～12月）紹介状況について

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
紹介率	27.4%	33.0%	46.9%	57.6%	59.7%	75.8%	60.1%	57.5%	64.3%	72.2%	70.9%	72.0%
逆紹介率	58.1%	93.8%	108.6%	105.3%	112.0%	120.2%	96.9%	112.3%	117.3%	116.8%	118.0%	130.8%



近隣医療機関の皆様におかれましては平素より救急診療へご協力いただき、心より感謝申し上げます。

当院では2021年10月から救急科が新設され、それに伴い救急医が1名派遣されました。これまでは各科持ち回りで救急対応をおこなっておりましたが、平日日中の救急車対応に関しては救急科へ一任されることとなりました。救急医だけでなく、救急外来専任の看護師が配置されるなど病院をあげて救急診療体制の充実を図っております。備北圏域の中核病院として、重症患者を圏域内で対応する事は非常に重要な使命であり、微力ではありますが日々尽力しております。ヘリポートも設置されている当院ではドクターヘリの受け入れのみならず、ヘリでの転送も積極的に行っており、当院で対応できない患者に関しては早期に高次医療機関へ転送するなどシームレスな救急診療を心がけております。

国内では高齢化が進み、医療・福祉に対するニーズは年々増えています。備北圏域は県内でも特に高齢化が進んでおり、むしろ世界の最先端を走っているという見方もできます。そういう地域での救急診療体制の整備は全国的にも重要な課題であります。急性期病院の受け入れ体制のみならず、出口戦略を考えた地域全体でネットワークを構築する必要があり、地域をあげて地域住民の健康を守るという視点が重要と考えております。

発足し間もない救急チームですが、より良い医療を提供できるよう日々精進しております。近隣医療機関の皆様とは、手を取り合いつつ備北圏域の医療をより良いものにしていければと思います。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



市立三次中央病院 救急科 松本文雄

## ～血液内科から～

### ～ 地域からの紹介をお待ちしています～

血液内科は近年最も治癒率・生存率の向上した分野の一つと考えますが、おそらく診断に至らない患者さんもまだまだ多くおられると推察します。

また、今まで広島市などの遠方まで通院されていた方々の負担を少しでも軽減できればと考えております。

このたび、整備に時間を要しました無菌治療室4床を2月に設置し、施設を充実しております。

急性白血病や悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの易感染性の患者様も、今まで以上に安全な入院環境のもと、抗がん剤や免疫抑制薬を含めた専門的医療をお受けいただけます。当院は、備北圏域では唯一の、無菌治療室を備えた血液疾患専門診療が可能な施設です。少しでも“おかしいかな”と思われる患者様がおられるようでしたら気軽にご紹介くだされば幸いです。

市立三次中央病院 血液内科 川野宏則